市民と市長のタウンミーティング要旨

日 時：令和6年6月29日（土） 14時30分～16時30分

場 所：コミュニティセンター鶴間会館集会室

テ ー マ：新総合計画及び市政全般

参加人数：39人

○参加者からの意見等

【意見】

- ・ 精神障がい者の医療費は家計を圧迫するので、心身障害者医療費助成制度の対象範囲を広げて欲しい。
- ・ 就労支援B型事業所の工賃の最低額を500円以上にして欲しい。
- ・ 精神障がいの偏見を無くし、新しい健幸都市総合計画には、心の健康についても盛り込んで欲しい。

【市長】

- ・ 心の健康は市長になる前から政治活動の柱のひとつとしてきている。
- ・ 就労継続支援作業所は国の制度であるため、ご意見について国に働きかけていきたい。
- ・ 心の健康を推進するとともに、精神障がいについて正しい理解がなされるよう啓発にも力を入れていく。

【意見】

- ・ 学校施設について、老朽化による損傷や機械的な不具合に対する修繕費は計上していないのか。
- ・ 日本で暮らす外国人が増える中で、不法滞在者による犯罪に不安を覚えている。治安対策は何か考えているか。

【市長】

- ・ 予算計上しているが予算に限りもあるため、すべての学校のすべての案件に対応するのは難しい。
- ・ お子さんや先生方の健康や安全にかかわることに関しては臨機応変に対応するよう努めていく。
- ・ 不法滞在については、適正に対処するよう国に求めている。
- ・ 治安という意味では、大和駅周辺の対策を行っていて、パトロールやごみの撤去などに取り組んでおり、大和市が選ばれるまちになるためにも、力を入れていく。

【意見】

- ・ 外科、内科、精神科と医療費が多く掛かっているため、心身障害者医療費助成制度の対象範囲を広げて欲しい
- ・ 就労支援B型事業所の工賃の最低額を500円以上にして欲しい。

- ・ 双極性障害について、なかなか理解されない。
- ・ 障がいがあっても安心して老後を暮らせるようにして欲しい。

【市長】

- ・ 心身障害者医療費助成制度の拡充に関しては、市が単独で対応することが難しいため、国に対して全国一律の制度として実施するよう要望している。
- ・ 市としてできることは限られているが、職員と一緒に地域で自分らしく生活するための支えについて検討を進めていく。
- ・ 就労支援B型事業所の工賃について、市が直接的に関わることはできないが、物品や業務を就労継続支援B型に市が発注するなど、今後も市が出来ることについて検討を続けていきたい。

【意見】

- ・ 小学生と未就学児の子育て中で、児童クラブを利用している。
- ・ 先日、土曜日に急な仕事が入り、預けようとしたら土曜日は就労証明書が必要とのことで預けられなかった。
- ・ このような場合に、子どもが一人でもいられる居場所、地域の人が見守ってくれる場所があるとよいと考えている。
- ・ 学校によって異なるが、登下校の旗振り当番の負担が大きく、このためだけに仕事を休んでいる人もいる。
- ・ 通勤途中にある別の学校では、地域の皆さんが旗振りしてくれており、大和市全体に広げられることを願っている。

【市長】

- ・ 児童クラブの対応については、柔軟な運用ができないか、対応の可否について検討していく。
- ・ 児童クラブは、支援員も補助支援員も足りない状況が続いており、大和スタイルということで、地域の皆さんに協力していただける仕組みを作っていく。
- ・ 登下校の子どもの安全のために、PTAや地域の皆さんに多大なるご協力をいただいております。感謝申し上げます。
- ・ 大和市は道路整備計画がないので、歩行者の安全、特に登下校の安全という観点を計画に落とし込んでいく。

【意見】

- ・ 地区社協で抱えている問題、全国的な問題でもあるが、担い手がいらない。
- ・ ボランティアとして活動してくださっていた方々が高齢化し、定年延長などで次の世代も担い手にはなれないという状況がある。
- ・ 市でも「やまとボランティア総合案内所」など、いろいろやっているが、担い手不足の解決には至っていない。
- ・ 希望の光は、青少年健全育成イベントに協力してくれている中学校のボランティア部の生徒たちである。

- ・ ボランティア部は一部の学校のみで、ボランティア部がないからイベントに参加できないという話もある。
- ・ ボランティア部が全学校に広がれば、将来的な担い手になるきっかけとしてもよいのではないかと思う。

【市長】

- ・ 地域活動だけでなく、学校、保育所、児童クラブなど多くの場所で担い手が不足しており、市として出来ることは早急に手を打っていきたい。
- ・ そのためには、若者から選ばれる大和市、東京都民や横浜市民が大和市に引っ越してきたいと思わせるような魅力あるまちを作っていくために動いている。
- ・ 現在、上瀬谷の「GREEN EXPO」と、その後に開業するテーマパークに協力しており、大和市やその周辺で何か面白いことが起きていれば、若者が集まり、働き、定住を促進することで、人口が増加し税収も上がる。
- ・ そうすることで、予算を福祉などに充てるようにしていきたい。
- ・ 中学生がボランティア活動することはよい経験になるので、ボランティア部に関するご意見については、関係する所管課に情報提供する。

【意見】

- ・ 福田相模原線の道路改良事業に伴って、南林間四条通交差点に接続する部分の段差があり、車の通行、特に大きな車が通ると周辺に振動があるので、早期の整備完了・改善を要望する。
- ・ 近年の環境問題、温室効果ガス排出量の削減点と、心を豊かにする緑という視点で、緑あふれるまちづくりを進めて欲しい。

【市長】

- ・ お困りの状況を改めて確認するとともに、整備完了に向けて事業を進めていく。
- ・ 緑に関するご意見は、関係する所管課と情報共有させていただく。

【意見】

- ・ 資源リサイクルについて、リサイクルステーションの管理を自治会内の当番制で行っているが、高齢化により対応が難しい方が増えているので、戸別回収にして欲しい。
- ・ 自治会未加入の人によるルール違反も多いため、戸別回収にすることで違反も減ると考える。

【市長】

- ・ 日頃からリサイクルステーションを管理していただき感謝申し上げます。
- ・ 資源リサイクルの戸別回収については、他の地域からも要望をいただいております、実施するには様々な調整が必要であるため、時間が必要である。
- ・ 戸別回収の可否について検討を続けていく。

【意見】

- ・ 先ほど市長からあった、道路整備に関することや、若者が住むまちにしたいということ、新しい総合計画は10年間の計画ということなので、概略でよいので計画の中でわかるように書いてあることが大事ではないか。
- ・ 大和商工会議所と文教市民経済常任委員会との意見交換会の議事録には市議時代の市長が「大和市は航空法の制限があるので、高い建物が建てられない状況を、国に働きかけていきたい。」と発言した記録があり、議会答弁でも「周辺の海老名市など容積率が高い中で、大和市は比較的、容積率が高いところがないので集約ができない」とある。
- ・ そういったことを、今後、国や県に働き掛けていくと発言されているので、新しい総合計画の中に概略でも書く必要があるのではないか。
- ・ 東急南町田のまちづくりでは、駅周辺の開発に伴って、徒歩10分～15分圏内の戸建てに住む高齢者が駅近のマンションに移り、戸建てのエリアには子育て世代が住むということを行っている。
- ・ 10年間の計画であれば、まちづくりの方向性を踏まえて書いていかないと、若者が住むというキーワードを達成することは難しいのではないか。
- ・ こういった内容を新総合計画に落とし込むことにより、人口増や住みやすい街づくりが達成できると考え意見させていただいた。

【市長】

- ・ 新しい総合計画に向けて、街づくりは重要な要素である。
- ・ 大和市には航空法による建物の高さ制限があり、45m以上、14階建て以上の建物は建てられず、人口20万人以上の市で、航空法の制限で20階以上の建物が無いのは大和市だけである。
- ・ もし、20階以上の建物が建てられたら、大手不動産会社による魅力的なまちづくりが成され、固定資産税、市民税、法人市民税などの税収も多くなっていたはずであるが、航空法の高さ制限によって、大和市への投資から手を引く企業もある。
- ・ 昨日、全国的な基地関係の会議があり、国に対して現状を訴え、交付金の増額を求めてきた。
- ・ 高さ制限がなかった場合に見込まれる税収など、目に見えない部分で大きな影響を受けていることを国に伝え高さ制限の規制緩和を求めている。
- ・ コンパクトシティ、駅近に高齢の方、少し離れた広い場所に子育て世代というのは、私も賛成であり、大和商工会議所などとも手を組んで、大和市が選ばれるような、まちづくりをしていきたい。
- ・ しっかりした税収で健全財政にするため、これから福祉に係る予算が増大していくことも踏まえ、大和市を稼げるまちにすることを大前提に考えている。
- ・ 市内で空いている土地を少しでも有効活用できるように、私がトップセールスマンになって企業誘致に取り組んでいく。
- ・ 大和市の売りは“災害に強いまち”で、これまで自然災害によって亡くなったかたはゼロで、関東大震災では、当時の建築技術で約600の建物のうち

1割の倒壊で済んでいる。

- ・これは地盤の固さによるもので、東日本大震災、能登半島地震を見ても、大変重要な要素であり、厚木基地や私鉄3路線の設置も、地盤の固さによるところが大きい。
- ・地盤の固さに驕ることなく、災害への備えはしっかりやっていく。
- ・能登半島地震では水の問題が大きかったので、防災協力井戸の拡大や学校への井戸設置なども進めていく。
- ・災害に強いまち、選ばれるまちをキーワードに、大和市が発展していくための政策を進めていく。

【意見】

- ・私道に砂利を入れてもらう場合、土地所有者や関係者全員の署名が入った同意書が必要であるが、高齢化により介護施設への入居、入院などで全員から同意書がもらえず困っている。
- ・自治会長の署名を入れた要望書によって対応して欲しい。

【市長】

- ・土地所有者や関係者が高齢になり、連絡が取れず対応ができないことについては、私道だけでなく空き家問題にもつながる。
- ・住んでいなくても建物があると、固定資産税と都市計画税の特例が受けられるので、空き家を維持する人が多く、市税は減収ということになる。
- ・大和市が選ばれるまちになるためには、空き家を解消していく必要があり、今それに向けた検討を続けているところである。
- ・私道についても、砂利入れや整備をする場合に、本人と連絡が取れないことで前に進めない状況は解消していきたいので、いただいたご意見も含めて検討していく。

【意見】

- ・先ほども意見があったが、自治会員が減っているので、資源リサイクルを戸別回収にして欲しい。
- ・自治会費を払っていない人もリサイクルステーションを利用しているので、お金払って自治会に入っているのは不公平だと言われてしまう。
- ・高齢になってリサイクルステーションまで出しにいくのが難しい人も増えているだけでなく、リサイクルステーションの管理する人も減って立ち番するために仕事を休んでいる人もおり、限界を感じている。
- ・このままでは10年と持たずに自治会が消滅してしまうので、役員や班長の仕事を減らすように努めているが思うようにいかない。
- ・まずは、一番の負担であるリサイクルステーションを廃止し、戸別回収にして欲しい。

【市長】

- ・自治会は地域の宝だと思っており、日々の活動に感謝申し上げる。

- ・ テレビ、YouTube、TikTokなどのメディアで自治会のデメリットばかりを面白おかしく取り上げているのが、若い世代の自治会離れを誘発しているのではないかと考えている。
- ・ 自治会を通じて顔見知りになり、地域のコミュニティができているからこそ日本で災害があった時に略奪や暴動は起きず、秩序が保たれ皆で支え合って乗り越えられていると思う。
- ・ 自治会のメリットに光を当てて、ポジティブなメッセージを発信していかなければならない。
- ・ この場で具体的なことはまだお伝えできないが、自治会の役員をやっている人、会員になっている人たちに、プラスになるようなインセンティブを付与していければと考えている。
- ・ 資源リサイクルについては、地域の皆さんの声を聴きながら、戸別回収も含めて対応を検討していきたい。

【意見】

- ・ 新しい総合計画の説明の中で、3つのまち、北のまち、中央のまち、南のまちとあり、鶴間は北のまちに入っているが、商店街は商業的には過疎化が進んでおり、活気がない。
- ・ 市役所の最寄り駅がある鶴間は、市の中心として中央のまちに入れるべきではないか。

【市長】

- ・ 鶴間は北のまちと中央のまちが重なっている地域としている。
- ・ まちづくりや商業振興については、それぞれの分野で課題等を踏まえたうえで計画を立て施策を展開していく。
- ・ 上瀬谷で行われる「GREEN EXPO」と、その後に開業するテーマパークへのアクセスに関して一番近いのは鶴間駅なので、大和駅も含めて来場者や従業員の利用が見込まれる。
- ・ 駅前には稼げるまち、住宅街は静かで暮らしやすいまちという形でまちづくりを展開していくので、鶴間駅周辺も含めて検討していく。

【意見】

- ・ 学校の調べ学習で大和市の防災について調べている。災害に強いまち、地盤が固いことなど、市長のお話や市ウェブサイトで知ることができた。
- ・ 緊急地震速報は市長が出すのか。

【市長】

- ・ 緊急地震速報は国が出し、その情報はすぐに消防や危機管理監から市長にも伝えられ、状況に応じて災害対策本部などを立ち上げて、市長をトップに災害対応をしていく。

【意見】

- ・ 先ほど意見があった、私道の砂利入れに関する同意書が得られない場合に自治会長が代理で同意書を提出する件について、重ねてお願いする。
- ・ 自治会区域内に大きな公園がないため、夏祭りの会場探しに苦慮している。
- ・ 保健福祉センターの駐車場や、鶴間コミセンの敷地など、公共施設の一部をお借りできるようにしていただくと大変助かる。
- ・ 西鶴間連合自治会館は駅に近いので、駐輪場として貸し出しせたらと考えているが、市の土地であるが可能かお尋ねしたい。

【市長】

- ・ 私道については、関係者と連絡が取れない状況を解消していきたいので、自治会長の代理も含めて検討させていただく。
- ・ 土地所有者や関係者との連絡については、空き家対策にもつながってくることなので、現在、様々な検討を続けているので、よい方法を導き出していきたい。
- ・ 公共施設を地域活動で使用するということについては、出来る限り対応していけるようにしたい。
- ・ 自治会館の土地を駐輪場にすることは、ご意見として関係する所管課に情報提供し対応の可否を検討していく。

【意見】

- ・ 野良猫の不妊去勢手術に係る助成金について、隣接する海老名市、綾瀬市、座間市、藤沢市、相模原市など神奈川県内で助成する自治体が増えているので、大和市でも助成することを検討して欲しい。

【市長】

- ・ 野良猫の不妊去勢手術助成について、県保健所が助成しているので、大和市では行っていないが、近隣の自治体で実施していることもあり、対応ができないか職員と一緒に話し合いをしており、実施の可否について、引き続き検討していく。

【意見】

- ・ 新総合計画の財政運営の方向について、社会保障関連経費、老朽化している公共施設の維持改修経費などが増加するので、国、県補助金を積極的に活用していくとあった。
- ・ 補助金の活用は行うべきであるが、企業誘致などによって自主財源を確保することも重要であり、目指す理想を達成するためにも力を入れてもらいたい。
- ・ 資源リサイクルに関して、「プラごみ」と表現するが、貴重な“資源”であることを押し出さないとダメだ。
- ・ 鶴間2丁目ちびっこ広場について、地域にある数少ない広場で、子どもの遊び場だけでなくリサイクルステーションにも利用している。
- ・ 最近、測量している姿を見るので、無くなってしまうのではないかと多くの

方が心配している。ぜひ、今のまま残すようにしてほしい。

【市長】

- ・ 「プラごみ」という表現が浸透しているので、「容器包装プラ」という表現を浸透できるようにしていく。
- ・ 資源は宝であり、自主財源の確保という視点でも、しっかり対応していく。
- ・ 鶴間2丁目ちびっこ広場については、都市公園法の規定で設置した広場であり、広場に関する測量を行った事実はなく、周辺建物等のものであると思われる。
- ・ 改廃の予定はなく、引き続き、ちびっこ広場として利用いただきたい。